



上末っ子

令和5年5月31日

6月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧ください。

フレンズ活動で「自己有用感」を育む

校長 内田 宏平

「自己有用感」とは

「自己有用感」は、他人の役に立った、他人に喜んでもらえた、・・・等、相手の存在なしには生まれてこない点で、「自尊感情」や「自己肯定感」等の語とは異なります。

「国立教育政策研究所 生徒指導リーフ (Leaf.18)」

先月号で、「自分のよさ」を知ることの大切さについて書きました。「自分のよさ」を肯定的に把握しておく、困難な壁にぶち当たったときに、それを乗り越えていくパワーが生まれてくると思うからです。「自分のよさ」を知ることによって、「自尊感情」や「自己肯定感」も育っていきます。

類する語に「自己有用感」というものがあります。社会性を高めていくうえで、「自己有用感」を育む視点も大切にしていきたいと考えます。

(前略) 単に「クラスで一番足が速い」という自信ではなく、「クラスで一番足が速いので、クラスの代表に選ばれた。みんなの期待に応えられるように頑張りたい」という形の自信です。その意味では、「クラスで一番」かどうかは、さほど重要ではなくなっている、とさえ言えます。

「国立教育政策研究所 生徒指導リーフ (Leaf.18)」

自己完結に留まらず、周囲との関係のうえに高まっていくのが「自己有用感」だと言えます。

先日、三ツ池公園への全校遠足を実施しました。私は、とても幸せな時間を過ごすことができました。

- マスクを外してのびのび活動する子どもたちの表情の輝き！
- 異学年の仲間と自然に仲良く過ごせるフレンズ活動の楽しさ！
- 多くの保護者、学援隊、地域の方々に見守られて教育活動を営める安心感！
- 最高学年として下級生を楽しませよう、支えようと奮闘する6年生の優しさ&頼もしさ！

6年生の頑張りは、本当に素晴らしかったです。前出の「国立教育政策研究所 生徒指導リーフ (Leaf.18)」にある表現を借りるのであれば、「6年生だからこそ、下級生の期待に応えられるように頑張りたい」というように、自身の立場を理解した上で、さらに周囲の人の思いを感じ取って行動することができていました。多くの下級生が安心して楽しめていたのはそのためです。6年生に対して憧れを抱いた子も大勢いたはずですが。

全校遠足は、フレンズ活動(たてわり活動)の一つとして行っている行事です。年間を通して、計画的にフレンズ活動を行っています。多くの子が、自分の存在意義を実感し、自己有用感を高めることのできるような実践を積み重ねていきたいと考えます。



1年生に寄り添って支えてくれた6年生！



みんなで鬼ごっこ
さすが6年生！速い！

ブランターと同化して隠れる…
楽しませてくれた6年生！